

「人生の交差点」～無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ



2026 年 秋・86 号

信条・世に媚びず ・ 粹にとらわれず
・ 言いたいことはハッキリ言おう

発行／馬場 雅夫

FAX：06-7879-6372

〒110-0015

東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL：https://lifecrossing.ne.jp/

E-mail：info@lifecrossing.ne.jp



祝・世界遺産日本27番目登録、奈良飛鳥藤原の宮都。その代表が蘇我馬子墓と推定のここ石舞台。古墳の中に埋められていた石室だか、永年の間に風雨などで削り取られて現在の剥き出し姿になったのを、訪れた人のどれだけが理解していることか。本誌11頁参照

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

天皇制「なぜ」続けるのか問う

朝日新聞2026.7.19記事《日曜に想う》より

有田哲文記者…2

高市早苗首相、イソップ物語

北風と太陽の話をご存じでしょう？

東京台東区 三田 栄考…3

あなたは幸せに天の門を潜れますか？

横浜市 画柳会代表 中田 恭子…4

私の信仰について クリスマスとして揺るがない

千葉市 大原 恵梨香…5

非戦・反戦運動は、自給自足的な地域づくりから

信州小海町議員 渡辺 均…6

特別国会を振り返って

国民民主党 衆議院議員 井戸 まさえ…7

立憲(中道)はなぜ墓穴を掘るのか？

間違ったら謝るのは当たり前 大阪東成区 田淵 豊…8

遠き思い出のベルリン 若き日の記憶

千葉県船橋市 簀下 紀夫…9

第26回 映画で、世界を照らす『月てらす』が熱い！

映画監督・画家 増山 麗奈…10

飛鳥・藤原の宮都遺跡

大阪 中央区 原野 通有…11

二度の地球一周クルーズ 船上で過ごした103日間

体験者 榎本 恵子／聞き手 藤田 新三…12

人々の小景⑩ プリーモ・レーヴィ

今を生きることの憂鬱(「174517」とは何か)

鎌倉 市川 隼…13

頤城騒動(くびきそうどう)のリーダー市兵衛の話

東京 丸山 牧夫…14

特選エッセイ／余話／編集後記……………15

今こそ、地域から政治の流れを変えよう

高市政権の暴走を止め、市民とともにつくる政治へ

立憲民主党東京都連代表 川名 ゆうじ…16

毎号表紙を飾る写真を募っています。単なる風景ではなくユニークなものを歓迎します。

視点



天皇制「なぜ」続けるのか問う

朝日新聞2026.7.19記事《日曜に想う》より

有田哲文記者

(以下、掲載記事全文)

日本は言論の自由がある国とは本誌も大いに認めるものである。が、天皇制についてはタブーの聖域であり、公的の場では否定的発言は認められない。(あっても報道しないのだろ)本誌の家族、周辺にも存在を問題にする声もあるがメディアには取りあげられない。今回の皇室典範改定も国会の意見を聞くが、世論を無視している。改定案に対する世論調査が垣間見られるが、養子、女系の意見を問うても、首都の中央に広大な皇居、天皇制そのものの是非、天皇家の戦争責任などは設問すら設けられない不自由な国家である。

そんな折に朝日新聞が『天皇制「なぜ」続けるのか問う』との記者の署名入り記事が載っていた。本誌では、朝日新聞社および執筆記者に連絡し、転載の許諾を得たうえで、「視点」欄に記者名を明記し、全文を原文のまま掲載した。

皇室典範の改正が、国会で成立した。旧宮家の男系男子を皇族の養子に迎えるという「無理筋」の内容が、これほどわずかな国会審議で通ってしまうとは。批判の論点はいくつも出されたが、平等や人権の観点からは以下の2点が重要だ。

「特定の血筋の人だけを養子の対象にするのは、憲法14条が禁じる『門地による差別』にあたる」

「そもそも人権や生活の自由が制限される皇族になることを希望する人がいるのか」

しかし考えてみれば、その二点とも現状の皇族にそのまま当てはまる。生まれにより皇族になる人、天皇になる人がいるのは、門地による差別そのものだろう。人権や自由が制限される暮らしも現実だ。皇族から離れることを選んだ小室眞子さんの姿は記憶に新しい。

養子案のもつ「無理」を突き詰めていけば、天皇制そのものがはらむ「無理」に思い至らないわけにはいかない。そもそも一般の政策であれば、政策手段と同時に、政策目的が論じられるものだ。消費税減税という手段の政策目的は、物価高対策である。

それがあから手段の効果や是非を議論することができる。しかし、ことこの皇位継承問題においては、政策目的は論じられていない。天皇制を「どうやって」続けるかの議論はなされても、「なぜ」続けるのかの議論はない。無理をせずに消滅したら、何が問題なのか。

記者は官僚や元官僚と話すとき、こんな問いを投げかけることがある。「天皇制は、なくてもいいのではないか」。目を丸くする人もいるが、あなたの言うことも分らないでもない、と話す人もいた。「しかし」と続けてこう言われた。「社会を安定させるためのコストの安い仕組みだとは思う」

自然災害が起きたときに被災者を見舞う姿が、人びとを

落ち着かせた。勲章や褒章なども、その権威の源は天皇にある。そうした効果が、天皇・皇族の生活費と活動費というコストで得られるなら、意味のある仕組みだというわけだ。

一つの考え方にはあるのだろう。しかし、ここに抜け落ちていくものがある。人権や自由を制限されながら、その役割を果たす人間の人生そのものである。

皇室典範の議論が進むなか、中曽根弘文参議議員のこんな発言が注目された。「愛子さまが天皇になったら、結婚する人もいない」。暴言だとして、すましていい話だろうか。この発言のおかしなところは女性に限った点である。男性であっても天皇になることを運命づけられた人が

結婚相手を見つけるのは簡単ではないだろう。待っているのは自由の喪失と、継嗣誕生の重圧なのだ。

天皇制のありようは「身分制の飛び地」とも言われる。世襲的身分を廃止したこの国で、そこだけ特権的な身分が残されているという意味だ。

天皇・皇族には参政権や表現の自由、職業選択の自由など、憲法で認められた権利が制約されている。そのことを考えると、特権と隷属は紙一重である。女系を認めたとしても問題の一部を是正するだけだ。

皇族に生まれるのですか？ あなたならどう答えるだろう。もし多くの人が「いやだ」と言い、その一方で何となく天皇制は残ってほしいと願うなら、その社会は不健全ではないだろうか。

天皇制「なぜ」続けるのか問う



朝日新聞の切り抜き 2026.7.19付け

高市早苗首相、インソップ物語

北風と太陽の話をご存じでしょうか？

東京台東区 三田 栄考



人は力づくで攻めてもより強固に守りを固める、が、

思いやりや穏やかな働きかけの方が効果がおおきいとの教えですね。

私は社員に対しても、商売に於いても、いや家族に於いても実感することが度々ありました。国家間においては国益、過去の怨念、面子など遙かに複雑で面倒なパズルです。売り言葉に買い言葉では賢明な政治家の成す技では無いと思う。

『殴ったるぞ！』『殴れるものなら殴ってみろ！』と答えた当社の社員は本当に殴られました。殴った方は気の毒に解雇になりました。『まあまあ、そう言うなよ』となだめる余裕があつてこそ先進国、民主主義国の宰相の器かと思ひます。忸怩な息子に手を焼いてい

る私に妻は『あの子をうまく手なずけるのが貴方の仕事』と難問を私に突き付けています。

国家間のことはそれより遙かに遙かに困難で難しいのは当然でしょう。逆にそれ故に被害も効用もその何層倍、何百倍も大きいのではないのでしょうか？

私は中露北のいずれも好きでも嫌いでもありません。そこに何百万、何千万の暮らしがあるのを認めるだけです。日本の0.1%の面積しかないガザ地区ですら地球上から抹消できないのですから未来永劫彼らと付き合っていくしかないのです。仲良くやっていくしかないのです。

こちらは野党や自由な発言できる民意があるのに対し、向こうは権威主義国家ですから国内批判がない。だから外交的には向こうが有利であることを認識して、対応しなければならぬのだから大変です

ね。ご苦勞様です。民意をうまくテコにして太陽を照らしていただけませんか？

習近平氏にも笑顔で抱きつかませんか？ 北京に飛べませんか？



こちらが硬化したら相手も

対決姿勢に出ます。武器を用意したら向こうも鉄砲を持ち出します。南西諸島にミサイルを配備したら空母を巡回させます。こちらが3%の軍備と言えばより軍事費を増やします。抑止力の理論は理解できますが、盾と矛の中国の逸話矛盾があります。やつつけるにも守るにもこれで完璧大丈夫の範囲は永遠にありません。ミサイル、ドローン、核兵器、宇宙と際限なく兵器が飛躍的に発展してとどまることはない。

人類はいずれ大きな滅亡の誤りを犯しかねません。第二次世界大戦、ヒロシマ、ナガサキから幸いにして80年原爆が実戦に使用されずに来ましたが、核の恐ろしさを忘れた、知らない、知ろうとしないうリーダーが跋扈（ばつこ）しているように思えてなりません。戦術核とか、使える核とか、過剰な内外人の防衛法策、挑発的というよりも挑発の軍事行動等々。

エスカレートした彼らの策に高市さん売られた喧嘩でも上手にいなしてくれませんか。貴女の保守的な政策をもととしましょう。

でも、どうか喧嘩を売られても買わないで下さい。トランプ大統領ですら今年4回も習近平氏と会うそうです。隣国として2千年も交流してきた我が国が、漢字や仏教や色々な文化を受け入れた日本国が、どうして首脳同士がお付き合ひできないのですか。そう、水面下で努力していると言われるのでしょうか。

仕事は結果です。貴女の師匠の安倍晋三氏は10回程首脳会談を行い、国賓として2020年に招くことになっ

ていたが残念ながらコロナで延期、消滅しました。小泉氏もピョンヤンに飛んでいきます。いいえ、言いなりになれとは申しませんが。綱渡りかも知れませんが、優しく丁寧な貴女の主張はしてもらって結構です。軍拡だ、軍事同盟だと喧嘩腰では相手もファイティングポーズを高めます。武器だけでは永遠に解決しません。トランプ氏ですら対話を繋いでいます。

百歩譲って軍備を背景にしても良い、あらゆる手段、方法を駆使して中露北とパイプを結んで下さい。嫌でも話し合いをしなければ、譲歩してでも会話をしなければ拉致問題も解決しません。話し合いの方が軍事外交より遙かに税金は助かります。効果も大きいのです。



当誌は世界平和のために百年後の世界連邦建設を推奨します。

あなたは幸せに 天の門を潜れますか？

横浜市 画柳会代表 中田 恭子

父を送ってもう30年になります。99まで生きてくれた母も送って5年になります。身近な人を送ってしまうと、いよいよ自分の番が来て介護をしていた父や母や叔母の言葉がよく思い出されます。

毎年暑さに弱くフラフラになつていましたが、去年よりは暑さを感じないのは歳をとったせいでしょうか。私も72になりました。

父母の後お世話をしていた叔母が、100歳の時にお部屋を26度に設定しているにもかかわらず、寒い寒いと言っていました。

その頃私はまだ普通に暑さを感じる60代でしたから、叔母の部屋の26度設定を何とか説得し、海側の窓を開け、自分の背中だけ風に当たつていいでいたことを思い出しました。

今、私はあまり暑くもなく、叔母が寒い寒いと言っていた感覚に近づいてきている

かもしれません。

歳をとると、体調も崩れ、嫌なことを考えがち。希望がないと意欲もなくなるので、そういう時は何も用がなくても外に出て少し歩いて周りを見回して、「色んなことに失敗が増える自分」を嫌いなならないよう必死で努めています。

歳をとった人に必要なのは、正しいことを正しいと論してくれる人ではなく、正しかりうが正しくなかりうが、「話を否定せず、遮らず、話を聞いてくれる人」などだと実感しています。

そのことを教えてくれたのは叔母でした。もうじき101歳になろうと言う間際まで頑張つて生きてくれました。叔母は私の事が大好きで、話が好きで、同じ昔の話を何度も何度もしました。

同じ話をする、若い人は「もう聞いた」とか「前に聞いたよ」という。忙しい若い人にとって、それは当たり前前



の返事。けれど、そういう風に言われると二度と話してはいけないと口をつぐむ人もいて、幸い両方の思いがわかる年頃の私は叔母の何百回にも繰り返される話を決して遮りませんでした。

叔母は亡くなる直前までずっと話し続け、そして体が動かなくなると口だけを動かしながら、「私はね、この世を旅立つときに、あなたの手を握つて、ありがとうと言つて死にたいの」と、この話もまた何度も何度もしました。



私は床を拭きながら、またお部屋を片付けながら、いろいろなことを【ながら族】で聞いたので、特にストレスを感じることもしなかったのです。叔母の話が始まったら、

何か仕事をする、と決めていたので、叔母の話が終わる頃に本当に仕事はかどつてよかったと言う気持ちでした。

叔母が体調を崩すと、私は施設の部屋に特別に通してもらい、毎日面会に行きました。ある日、なんだか施設から駅までが渋滞をし、車も進まないの、施設に帰つて、「今日は泊まるわね」と言いました。

診療所で穏やかな寝息を聞いて、しばらく横になろうと叔母の部屋に帰つたらすぐ呼ばれました。

私が離れた直後に亡くなったのでしよう。先生が「立派に生き、安らかに旅立たれました。ご臨終です」と言われました。

私は耳だけは最後まで生きていたと言う言葉を思い出して、耳元で「恭子です。そばに居ますよ」と言いました。

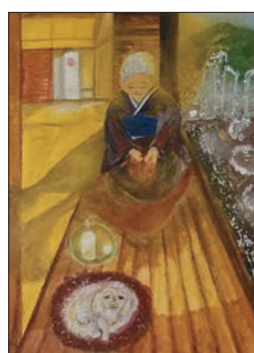
すると亡くなった叔母の手が直角にまっすぐ上がったのです。みんなびっくりしましたが、私は叔母の言葉を思い出して、手を握ると、とても強い力でぎゅっと握り返されました。

叔母の口は少し開いてい

て、顔は白く、息もしていませんでしたが、手の力があまり強いので、叔母にこう言いました。

「恭子です。ありがとうつて聞こえましたよ。逝くのですね。今までありがとう」

そうすると、手の力はだんだんと弱くなり、終わりました。



これから未来を作る若い命さえ軽視して、暗い闇の世界に突入しようとしている世界のリーダーがいます。

だけど、亡くなつていった魂たちは皆平和を望んでいるので、魂を信じ魂に手を合わせて「生きている私たちをどうぞお守りください」と今日も手を合わせるばかりです。

私の信仰について クリスチャンとして揺るがない

千葉市 大原 恵梨香



私にとって信仰とは、単なる習慣や文化的な背景ではなく、人生の根幹を支える揺るぎない土台です。クリスチャンとしての歩みは決して平坦な道ではありませんでした。しかし試練や葛藤に直面するたびに、むしろ神様に頼ることとで強められてきました。そうした瞬間を通してこそ、信仰の確かさと神の愛の深さを実感するようになったのです。

聖書の中でイエス・キリストは「わたしは世の終わりで、いつもあなたがたと共にいる」と約束されました。この言葉は、私にとって単なる慰めではなく、日々の歩みを支える確信です。人間関係が揺らぎ、健康や生活が思うようにいかないときも、この約

束が心に響き、恐れや不安を打ち消します。人は弱く、環境に左右されやすい存在ですが、神の約束は決して変わりません。そこに信仰の揺るぎなさがあるのです。

クリスチャンとしての信仰は、「理解を超えた平安」を与えてくれます。困難な状況にあっても、祈りを通して心が整えられ、希望を失わずに歩み続けることができます。大切な人との別れや、どうにもならない行き詰まりに直面したときでさえ、「神はすべてを益としてくださる」と信じていることができる——この確信が、私の信仰を内側から支えてきました。

こうした信仰は、私自身の内面だけで形づくられたものではありません。長年教会に身を置く中で、神様が確かに生きて働いておられることを、数多くの証しを通して目の当たりにしてきました。

例えば、長年うつ病に苦しみ、夜になると強い不安に押しつぶされて眠れなかった女性があります。知人に誘われ、

半ば気が進まないまま訪れた教会の礼拝で、彼女は神様と出会い、その後、癒やしを経験しました。神様との出会いは人それぞれですが、彼女は後に「心が解放され、感謝しかなかった」と語っていました。



浦上天主堂(長崎)でヨハネ像のポーズを真似る外国人女性

また、話すことに障害を抱えていた男性が、教会に通う中で次第に回復し、今では教会の行事で人々を乗せて車を運転する存在となっていました。さらに、薬物依存によって人生が崩れかけていた男性が、祈りと神様のもとに留まる歩みを通して回復し、今ではキリストの愛を人々に伝える者として生きている姿も知っています。

占いやさまざまな宗教的行為に答えを求めても心が満たされなかった女性が、神様と出会うことで初めて癒やしを得た、という話もありまし

た。聖書に記されている癒やしの出来事が、決して過去の物語ではないことを、私は現実の中で見せられてきたのです。

私は母体信仰として育ちましたが、これらの証しをただ聞くだけでなく、実際に目の当たりにすることで、信仰はより確かなものとなりました。同時に、一人でも多くの苦しむ人、悲しみの中にいる人が救われてほしいと、心から願うようになったのです。クリスチャンが神様のことを語るのには、決して怪しい勧誘ではなく、神の愛を伝えたいという切なる思いからなのだと、私は知ってほしいと願っています。

信仰は、自分ひとりの心の中に閉じ込めておくものではなく、生活の中で具体的に表れていくものだと感じています。人を赦すこと、感謝を忘れないこと、困っている人へ手を差し伸べること。これらはすべて、神の愛を受け取った者としての自然な応答です。失敗しても悔い改め、再び神のもとに立ち帰ることが

できる——その自由こそが、信仰の恵みだと思います。

世の中では、信仰や宗教に対して懐疑的な見方がなされることもあります。しかし私は、信仰があるからこそ人生の意味と目的を見いだし、前向きに生きられるのだと答えます。信仰は目に見えませんが、その実りは確かに現実の中に表れています。

私の信仰は、試練のない中で語られる理想論ではありません。揺さぶられる出来事の中で、なお揺るがないと証しできるものです。嵐の中でこそ、岩の上に建てられた家は倒れない——その言葉の通り、私の信仰もまた試練を通して強められてきました。

これからも私は、迷いや悩みの中で神に祈り、御言葉に耳を傾け、この道を歩み続けたいと思います。神の恵みがあるからこそ、私はクリスチャンとして揺るがず、生きていくのです。



※筆者は胎児の頃からクリスチャンとして母の母国韓国で生まれ、長じて家族で父の日本に移住。修学旅行などで寺や神社の鳥居を潜ることを拒んで育った。今も信仰を持つ若い母親としてキリスト者としての生き方を語ってもらいました。編集余話(15頁)参照。

一介の地方議員奮闘記(第7回) 非戦・反戦運動は、自給自 足的な地域づくりから

信州小海町議員
渡辺 均

さず、その後の値下がりです。赤字を防ぐという逸話が残されている。

転じて、全国の首長選挙では、概ね、安心、安全な地域づくりが公約として掲げられ、公約に掲げなくも、この安全、安心な地域づくりに異論をはさむ首長はいないだろう。

では、安心、安全を阻む最大のものは何か、それは言うまでもなく戦争である。となると勢いそのまま戦争反対を唱えれば、となるが、そうすると世論は多岐にわたりまたまらなくなる。非武装中立という平和論から核武装不可避論まで飛び交い、多事争論となる。

高市首相は強靱な国土形成を目標に、核抑止論を建前に軍事力の強化を標榜し、かつてのような国家統制の再構築を目指している感が否めず、それに抗する非戦、反戦陣営には確たる手立てが見いだせていないのが現状であろう。

自治体レベルで反戦、非戦に向けて何が出来るか、目標は水と食とエネルギーを確保

し、それで営める暮らし(自給自足)に対し、充足感、豊かさ感を学び(教育)、過不足を地域間で補完し合う広域連携(間口を広げると国になる)を図り、足元から、中山間地であるからこそ可能な自足をベースにした、奪わないう、奪い合わない関係の樹立を図ることに求めたい。

我が小海町は人口約4千人、約2千世帯が暮らす町で、水田が20haほどある。1haからコメが約100俵(1俵は60kg)収穫でき、町内産で2千俵ほど収穫できる。1世帯1俵の供給が可能で、総務省の家計調査年報では、一世帯1俵/年が平均的な消費量であるから、コメの自給が果たせる勘定になる。水は千曲川があり、そこに幾つかの支流が流れ込み、豊富である。

山間地は標高差が大きく、農業には不向きとされる一方、その落差を活用できるため、水力発電には適した地域である。(水力発電量は、重力(9・8)×落差(標高差)×1秒に流れる水量×発電効率(60〜70%)。小海町では、2千世帯×4kw≒8千

kwの電力があれば、エネルギーの自給が可能となる勘定で、その可能性は十分に見込まれ、仮に1世帯の電気料金が月3万円(年36万円)とすると、全世帯で年間7・2億円、8千kwの発電を賄うのに必要な発電所の建設に幾ら掛かるか、例えば総額7億円程度と見積もれば、1年でほぼ回収できる勘定となる。

中東に原油を求めなくても、円安を憂うこともなく、自給な暮らしを支えるエネルギーが確保できる。ちなみに小海町では中部電力が町内で八那池第一発電所を大正元年より稼働させ、750kw(約200世帯分)の電力を生み出している。この排水を活用し第二発電所を建設すれば同量の電力確保が見込まれるが、現在は千曲川に無駄に放水され勿体ない状況である。

水・食料とエネルギー自給への見通しが得られ、残された戦争原因の三つ目の宗教をどうするか、これは教育のテーマとして取り上げたい。町に流れ込む支流の一つに相木川があり、その川を挟んで南北に北相木村と南相木村が

ある。北相木村は山村留学に取り組んで30余年、教育移住の先陣を切った村で、今でも多くの孟母三遷を志向する都会からの子弟を受け入れている。南相木村では、全国でも稀有な立像として非戦の像を村費で建立、今でも毎年8月お盆の時期に非戦の誓を遺族中心に営み、非戦反戦運動を地道に進めている。



南相木村にある日本で唯一の不戦の像

両村の志を受けとめ、自給型地域づくりを進めれば、それはそのまま非戦、反戦運動につながり、真に安全で安心に暮らせる地域が創り出されることになる。長野県は県全体で自給圏構想を描いている。その一地域版として我が小海が先陣を切れば、と思っている。

渡辺均さんのプロフィール～長野県立野沢北高、立教大社会学部卒、㈱社会調査研究所(現インテージ)、㈱富士経済を経てマーケティング会社㈱総合市場研究所を設立、大手企業や林野庁、経産省、総務省などの調査、研究活動に従事。講演先でコンサルは口ばっか、とキツイ言葉に触発され、故郷で土建に偏る地域振興政策からの脱皮を目指す道半ば、2期目の町会議員。

特別国会を振り返って

国民民主党 衆議院議員

東京四区（大田区中心） 井戸 まさえ



今年2月の衆議院議員総選挙で、与党は衆議院の三分の二を超える議席を獲得しました。法案の再可決や憲法改正の発議も視野に入る圧倒的多数のもとで始まった今回の特別国会は、野党にとって極めて厳しいスタートとなりました。

委員会では、再審法と成年後見制度という、長年積み残されてきた二つの重要課題に真正面から向き合いました。

数の力による国会運営が可能となる一方で、野党には政府を監視し、審議を通じて法案をより良いものへ修正していく役割がこれまで以上に求められています。限られた質疑時間の中で論点を掘り下げ、一つでも多くの修正や前進を引き出すことが、野党の責任だと改めて実感した国会でもありました。また、選挙当時には予想されていなかったイラン情勢の緊迫化など、国際情勢も大きく変化し、経済政策や外交・安全保障にも難しい判断が迫られました。

私自身にとっては、13年ぶりの国政復帰後、本格的に臨んだ最初の国会でした。法務

再審制度の見直しをめぐる刑事訴訟法改正では、冤罪被害者の救済を遅らせてきた検察官の再審開始決定への不服申立てを原則禁止するなど、長年の悲願ともいえる改正が実現しました。一方で、証拠開示制度については十分とは言えません。証拠開示ルールをめぐって与野党の協議が続き、目的外使用禁止や証拠一覧表の開示などについて修正が行われましたが、私たちが求めてきた実効的な証拠開示制度にはなお課題が残っています。77年ぶりの法改正を第一歩として、今後も制度の充実に取り組んでいきます。

また成年後見制度の抜本改正も、私が力を注いできたテーマです。「後見・保佐・補助」の三類型を見直し、本人の意思をより尊重しながら必要な期間だけ利用できる仕

組みへ転換するとともに、デジタル遺言制度も創設されました。少子高齢化が進み、「おひとりさま」が増える時代にふさわしい制度へと前進したことを、大変意義深く受け止めています。

一方で、国会全体を振り返ると、終始もたついた印象は否めません。会期末には皇室典範改正案や国旗損壊処罰法案など重要法案の採決が相次ぎましたが、本来十分な審議を尽くすべき予算委員会の日程調整は最後までもつれました。さらに、副首都関連法案をめぐる与野党対立により会期は8日間延長され、政策論よりも政局対応が前面に出た国会運営だったと言わざるを得ません。



【衆本会議】井戸まさえ議員が刑事訴訟法改正案に対する反対討論で登壇（2026年6月16日）

国民民主党 つくろう、新しい答え。



榎葉幹事長が衆院選で応援～（2026年1月30日）

今回の混乱は、自民・維新連立の難しさを浮き彫りにしたように感じています。法務委員会では与野党を超えて丁寧な制度論が積み重ねられた一方、国会全体では政局の駆け引きが優先される場面も少なくありませんでした。本来、国会は国民生活に直結する政策を議論し、より良い制度をつくる場です。その原点を忘れてはならないと強く感じています。

次の国会でも、政局ではなく政策を軸に、一つひとつの課題について実質的な議論を積み重ね、国民の暮らしに役立つ制度改革の実現に全力で取り組んでまいります



野党議員の国会質問に直言

ある野党支持者から

まるで高市首相に自己宣伝の場を提供するような質問の仕方はやめてもらいたい。随（しな）猛幹事長は「支持率が下がっているのは何故か？」と問えば「公約を次々に実現」などと自分の都合の良い論理を展開させる機会を与える結果になる。「物価が上がって国民は苦しい」と言えば「G7では最も上昇率が低い。他国より賃金の上げ幅が大きい」と国民を説得する答弁になる。

メディアは発信力、野党の質問よりも実行力のある立場の首相の答弁を大きく取りあげるからだ。ましてや政策は幾らでも官僚が言い分を過大に用意してくれる。野党は質問するスタンスでなく、首相の答弁を幾種類も想定してそのフタを閉じて、抑える問答をすべきである。

自民党の悪政追及し野党の主張の正しさ展開する見せ場と心得て工夫してもらいたい。相手は首相一人。こちらは多角的に攻められるはずだ。国会論戦は政権の政策をお聞きするだけでなく、野党の政策を宣伝する場にするのも認められている。

故安部首相が「辻元さん早く質問しろよ」と言わしめたのは、彼女が許されている政策展開を堂々と主張したからだ。

井戸まさえプロフィール～1965年仙台市出身。東京女子大学文理学部卒、博士課程修了生涯人間科学博士。松下政経塾9期生。東京経済新報社入社、5児の母、無戸籍児童問題に活動する。兵庫県議2期、兵庫1区、宮城4区。東京4区、15区から国政に挑戦。当選2回

立憲(中道)はなぜ墓穴を掘るのか?

間違ったら謝るのは当たり前

大阪東成区 田淵 豊

政治において野党が政権を追及すること自体は当然です。むしろ健全な民主主義には欠かせない役割でしょう。権力の監視を怠れば、政治は容易に暴走します。

しかし、今回の「サナエトークン問題」や「総裁選におけるネガティブキャンペーン指示疑惑」の追及は、どう考えても筋が悪かった。

立憲民主党は、週刊誌の記事を根拠に「高市総理が関与しているはずだ」という前提で質問を重ね、証拠よりも推測を積み上げるような国会質疑を続けました。

国会は事実を明らかにする場であり、推理ゲームをする場所ではありません。

特に杉尾秀哉議員の追及は、相手に説明を求めるといふより、「犯人である」と決めつけた上で追及しているように映り、多くの視聴者に不快感を与えたのではないのでしょうか。

もちろん、高市総理を嫌う

層には喝采を浴びたかもしれませんが、政党が支持を広げようとするなら、熱心な支持者だけではなく、無党派層や中間層にどう映るかを考えるなければいけません。

その結果はどうだったか。問題に関係した人物が「高市総理とは一切関係がない」と証言し、記事を掲載した雑誌側も「誤りだった」と事実上修正する事態となりました。疑惑は急速にしほみ、この問題そのものが終息へ向かいつつあります。

こうなると、国民の記憶に残るのは疑惑ではありません。「また野党が無理筋の追及をしていた」という印象だけが残ります。

さらに理解できなかったのは、その後の国会対応です。この原稿を書いている七月初旬、野党は国会審議をボイコットしました。

比例代表を含めた衆議院定数削減法案への反発や、高市総理の答弁姿勢が不十分であ

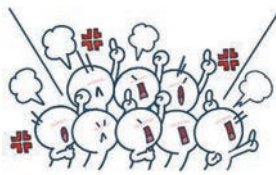
ることなどが理由です。

しかし多くの国民にとって「議論をするために選ばれた国会議員が、議論の場から退席する」という構図にしか映りません。

もちろん、抗議の意思表示として審議拒否という戦術が用いられることは過去にもありました。

しかし、それで支持率が上がった例はほとんどありません。

むしろ「仕事を放棄している」という印象を与えています。



立憲民主党は前回の衆院選で公明党との連携で、政権奪還への起死回生を狙いました。

しかし、その成果は期待したものとは程遠く、議席を大きく減らす結果となりました。

その上、今回の無理筋とも思える疑惑追及、そして国会ボイコット戦術でも国民の共感を得られていません。

やることなすこと、ことごとく裏目に出ています。

これでは失地回復どころか、自ら泥沼へ踏み込んでいくように見えてしまいます。小川代表が党再建に努力していること自体は理解できます。

しかし、本当に信頼を取り戻したいのであれば、今回の疑惑追及について説明責任を果たし、まず高市総理に謝罪すべきでしょう。

そして何より、国会をボイコットするのではなく、堂々と議場で政策論争を行うことが重要です。

野党の役割は、相手を悪人に仕立て上げることではありません。

与党より優れた政策を示し、「この政党なら政権を任せられる」と国民に思わせることこそ、野党本来の役割ではないでしょうか。

その原点を忘れる限り、立憲民主党が支持を回復する日は、まだまだ遠いと言わざるを得ません。

追伸

私はどんな立派な人であっても、社会的に地位のある人

であつても、間違ったときに謝れない人を信用しません。考え方の違いから間違うちょうも誤解することもあります。しかしそれが明らかに間違いであるとわかったら、誤るのは筋ですね。

編集部…このまま掲載したら立憲支持者からクレームが来ると思い、自称立憲支持者(中道党は不支持)のTK氏にコメント書いてもらったのが以下です。

TK氏 ナルホドこんな見方もあるのかとも思いました。でも、権力、人気、立場を悪用して世論に反して男系天皇に強引に突き進み、1国の総理としてトランプに抱きつくのはみっともないとは田淵氏は思わないのでしょうか。氏なら台湾有事発言は岡田克也議員がしつこく責めたからと言うのでしょうか。が、あの発言の為に日本と国民はどれだけの損害と迷惑を、何兆円もの損害を受けつつある軽率な発言の糾弾を優先すべきです。野党の言動よりも国民を束縛する権力者の行為を戒めるべきです。

遠き想い出のベルリン 若き日の記憶



千葉県船橋市 数下 紀夫

今から65年前「修道社」という出版社から「世界紀行文学全集」全21巻が刊行された。そのドイツ編を手取るに監督者（志賀直哉、佐藤春夫、川端康成）と掲載された紀行文の著者42名共々著名人揃いである。それにしても行く先はベルリンが非常に多い。イタリア編などとは好対照だが、フランス編も似たような状況でパリに集中している。共に大陸欧州を代表する都市として自然な成り行きなのだろう。

さて、そのベルリンで1970年代の初めの頃、つかの間の自由な時間を過ごすことが出来た。ウィーンを基地にして、東欧七カ国を駆け巡る商用旅行の合間のことであった。ベルリンの街へ入ると、今はもうその場所を思い出せないが、変わった標語を目にしたものである。それは「Berlin bleibt nicht Berlin」

と言うものであった。と言うのも、ウィーンに戻る飛行機の窓から幾度か目にした、とある保険会社の屋上に近い壁面に掲げられた標語で、こちらの方は「Wien bleibt doch Wien」とあった。ドイツ語に不案内な方でもこの二つのスローガンが似たような形をしていることにはお気づきであろう。夫々が言わんとするところは、前者は「ベルリンはこれから変わってゆくのだ」であり、後者は「ウィーンはやっぱり昔ながらのウィーンだ」とするものである。共にドイツ民族であり先の大戦時空襲でこっぴどくやつつけられ、その結果戦勝四カ国の共同管理下に置かれたのに、この気分の違いは何なのだろう。ウィーンの場合は何となく解るような気がする。「変わらないでいたい」とする気持ちであろう。一方のベルリンは？1918

年の第一次世界大戦敗戦後ワイマール共和国誕生を経て1945年の第二次世界大戦敗戦に至るまで、歴史の波に翻弄され続けて来た、とりわけ先の大戦時での破壊が余りに甚大であった。市街地の八割方が壊滅し、戦後は東西に二分された。もはや元のベルリンには戻れなかったのだ。



ベルリンの壁～1989年撤去。東西分断の歴史が終わり、冷戦終結

その様子をあの折私が訪れた六か所を通してどう変わったのか改めて辿ってみたい。その内の二か所、航空機がビルの谷間を縫って離着陸するテンペルホーフ空港とルドルフ・ヘス副総統を頭に七人のナチが収容されていたシュパルダオ戦犯刑務所は跡形も無くなった。もう二か所、ベルリンの壁と東西ベルリン市を繋ぐチャーリー・ポイント検

問所は、記念にその痕跡を僅かに残すのみである。更にナチの処刑場プリュツェンゼーは写真で見ると、私が半世紀余前に見たものとは違い、今は立派な記念館に变身したようである。あの頃は確か建物を含めて処刑場の一部をそのまま残していた。

フ誌写真と好一對を為していた。赤旗を下から見上げる兵士たちは言うに及ばず、故国であの光景を写真で目にしたロシア人達の胸の裡はいかにかりであっただろう。「勝った、遂に勝った！」独ソ不可侵条約の破棄からベルリン陥落まで、大祖国戦争を遂に戦い抜いた。

破壊から再生へと最も劇的な変化を遂げたのは1933年に放火で炎上した旧帝国国会議事堂であろう。私が訪れた当時、中には入れて貰えず、煤けた石造りの建物の周りをぐるりと一周しただけであった。正面に戻って屋根を見上げる。脳裏に浮かぶ光景は、東から雪崩を打って市中心を指して殺到して来るソ連軍部隊である。それから間もなく赤軍兵士二名が議事堂正面の屋根に攀じ登り、あの赤地に鎌とハンマーをあしらった赤旗（旧ソ連国旗）を掲げる。若い頃、「ベルリン国会議事堂に赤旗を掲げるソ連兵士」のキャプション付きのあの写真を幾度見たことだろう。あの写真は、硫黄島の小高い丘に星条旗を立てるアメリカ海兵隊員三名のライ



ドイツ連邦議会の本会議場

放火により内部を著しく損傷した議事堂は戦後暫く放置されていたが、焼け落ちた半球丸天井はガラス・ドームに代わり、今は明るいドイツ連邦議会の本会議場として生まれ変わったようだ。それは言わば過ちを二度と繰り返すまいという誓いの大きな記念碑に思えてならない。（完）

数下紀夫さんプロフィール～1940年（昭和15年）生まれ。京都府京丹後市出身。東京外語大英米語学科を卒業後、小松製作所（現コマツ）に入社、以後36年間同社の親会社・子会社の海外事業部要員を務め、60歳で退職。趣味はミステリー。視力の衰えにより読書からTVに切り替え、現在はCATVのアクション及びミステリー・チャンネル視聴が中心。「警視力サンドル」の主人公役フランス人女優グエン・ドリーヌ・アモンにぞっこん傾倒中。



お久しぶりです。映画監督の増山麗奈です。

現在、スマートフォン向け縦型ドラマ『月てらす』を毎週YouTube・Facebook・Instagram・TikTokに配信しています。

物語のテーマは、現代社会に広がる違法薬物です。

劇中では、「MOON」という違法ドラッグが人気ミュージシャンFELIXの楽曲とともに若者へ広がっています。

主人公・さやは、心の寂しさから知らないうちに薬物依存へと陥ります。その実態を知った国際警察の剣崎雄心（野寄聖統）と蒼井俊輔（伊

藤大輔）は、大阪のクラブや東横などを調査し、若者たちを救おうと奔走します。しかし、捜査は大きな壁に阻まれていきます。一方、自らの音楽が薬物の拡散に利用されていたことを知ったFELIXは、人々の心を救う新たな楽曲を発表します。

この作品は、人の心の弱さ、社会の腐敗、それに立ち向かう人々、そして音楽の力を描いたドラマです。

劇中では薬物を摂取した人が「ゾンビ」のような状態になる描写があります。この設定

は、現実の薬物問題をモチーフにしています。

近年、日本でも「ゾンビタバコ」と呼ばれる指定薬物が社会問題として報じられています。アメリカではフェンタニルなどの合成オピオイドによる薬物被害が深刻化し、多数の命が失われています。

2025年には、日本経済新聞などが、中国系組織による米国向けフェンタニル密輸

ルートの一部として日本が利用された疑いがあり、その関係先として名古屋市内に法人登記された企業が存在していたと報じました。一方、愛知県は関係事業者への立入検査を行い、検査対象となった事業所では違法取引や海外との取引は確認されなかったと公表しています。

した資料には、違法薬物密輸事件の容疑者や関係者、大麻種子の送付先など計187人分の個人情報が含まれていた。財務省は謝罪し、再発防止に取り組みとしています。日本では近年、「ゾンビタバコ」の売人とされる滝口涼介被告と起業家の溝口勇児氏と一緒に写った写真が報じられ、溝口氏は写真撮影について謝罪しました。また、元広



島東洋カープの羽月隆太郎被告は、指定薬物エトミデート（いわゆる「ゾンビタバコ」）を使用した罪で起訴され、薬物問題への関心が高まっています。

は、この問題に関する質問が行われました。同じ会見中、広沢一郎名古屋市長は体調不良で倒れ救急搬送されました。名古屋市長は疲労や緊張などが重なった可能性があるとして説明しており、質問内容との因果関係は公表されていません。さらに2025年2月には、財務省が違法薬物密輸事件に関する行政文書などを紛失したと発表しました。紛失

アメリカでは、年間7万人〜11万人の薬物中毒者が死亡するなど、薬物汚染が深刻化しています。私は2024年から2025年にかけて4度ロサンゼルスを訪れ、薬物問題の深刻さを目の当たりにしました。地下鉄や街では薬物依存が疑われる人々を数多く見かけ、宿泊施設では昼間から薬物を使用する人、路上には注射針が落ちている場所も

ありました。子どもを連れた依存者の姿を見た時には胸が締め付けられる思いがしました。

一度社会に薬物汚染が広がると、それを元に戻すことは容易ではありません。

『月てらす』は、薬物の恐ろしさを伝えるだけでなく、「寂しさにつけ込む薬物ではなく、人と人とのつながりや愛が社会に広がってほしい」という願いを込めて制作した作品です。

この作品が、日本の未来を考えるきっかけになれば幸いです。ぜひご覧ください。



飛鳥・藤原の宮都遺跡

ユネスコ世界遺産登録
見込みと聞いて

初夏のある日電動自転車
で巡ってみました

大阪 中央区 原野 通有

6月の日曜日近鉄飛鳥駅前で電動自転車を『5時までに帰って』と借りた。駅前の地図看板で目星を付けて南の方のキトラ古墳に急いだ。

【キトラ古墳壁画体験館】は新しい立派な建物だが受付は何やら違った雰囲気、予約してないからダメで2時間弱待てとのこと。

ネットで調べると超デリケートな国宝で公開期間も予約限定でその日が最終日。止む無く名前を登録してその間に電動カーを駆使して高松塚に急いだ。

高松塚壁画館は一般公開されているが、国宝の実物は4年間公開休止中。入り口際に夫人群像（切手などで御馴染み）の模写が展示されている。

模造の棺のみ撮影禁止。周りのガラス越しに極彩色の男性群像や四神の神獣が描かれている。

私も記憶しているが高松塚は1972年に戦後最大の発見として話題になったが直径18m高さ5mの小さな古墳で埋葬者はまだ特定されていない。

壁画館を出て仰ぐと丸く奇麗に刈られた古墳があったのでぐるっと一回りして文武天皇陵（第42代にして聖武天皇の父）を参拝してキトラに急いだ。



「飛鳥美人」～高松塚古墳の壁画

高松塚が発見されると地元の人々が『そんなのなら近くにもある』と1983年に発掘されたのがキトラだ。石室の天井に描かれた、大陸の影響を受けた本格的な天文図が、剥ぎ取られた実物をもと

に丁寧な復元されており、拝見することができた。

フーン、棺に納められた人は天井図の天体宇宙をどのよう



明日香村の橘寺・往生院の天井画

さあ、両古墳を往復したので時間が押されてきたので急いで飛鳥の目玉観光地石舞台に急ごう。高松塚を過ぎて5分ほどすると左に天武・持統天皇夫妻陵があった。

夫妻だから持統は（高市首相が回避する）何人かの女性天皇の一人。小山の陵を一回りして先を急ぐと亀石前に出た。その横道を5分ほど走ると聖徳太子が生れたという橘寺に至る。学生時代に土門拳の古寺巡礼の写真集で見た記憶が蘇ってきた。何やら格式高き佇まいの寺である。寺によくある寄贈者の名前を彫りこんだ石柱に古くは十圓から十萬円更には驚いたことに百

万円どころか八百万円まであった。

飛鳥村は観光地化して彼らが落とすお金の故か、開発公社の活躍もあって裕福そうな家並みが多く、町中には観光地が分かりやすい看板もあって道に迷うことはない。

が、脇道を通って石舞台へ向かったため、多少遠回りになってしまった。もう何十年も前に父と来たことは間違いないが、その当時と周りの状況が大きく変わっていた。説明書を読むと近年に昔に戻すべく整地しようだ。いや、完成時状態に戻したのではない。石舞台の巨石は、蘇我馬子の墓とされる古墳の玄室を形づくるものである。言うまでもなく、往時はその上を小山のような墳丘が覆っていたが、長い歲月の間に、意図的に自然にかは不明ながら土が失われ、玄室だけが現在の露出したのである。本来はそこに石棺があったはず。観光客は意識がなかっただろうが、玄室の左右の隅に排水路があって室外に導かれていた。あれ、当時の玄室には必要なかったはずなので、観光地として整備された

際に設けられたものだろうか。

お次は岡寺だが4時近いから急がないと。石舞台からの道路を、鳥居を右に潜って坂を登る。参道の坂がまだまだ続く。電動を頼りに必死で漕ぐ。最後の坂の駐車場から出てきた車をよけ損ねて自転車もわが身も倒れ左ひざを撃って出血。珍しくチリ紙を持っていたので岡寺を歩きながら、右手で左ひざを押さえながら鐘を突いた。紫陽花が石段に美しく、水面いっぱい花を浮かべた「花手水（はなちょうず）」は人気だが、人々は西国人々は西国三十三霊場の七番札所とか4・6mの土で作られた日本最大の塑像も無関心のようだ。日本最古の飛鳥寺に15分急ぐ。時間もないし、入寺料を何度も払ったので建物を無視して庭を散策、70mほど先の入鹿の首塚に急ぐ。

日本書紀によると645年大化の改新で中江皇子に大極殿で斬られた首がここまで跳んできたそう。飛鳥駅への帰路迷うこと20分レンタ車のシャッターは閉まっていたが背後からお帰りの声で助けられた。

エジプトピラミッドも現在外観は石の階段状態だが、完成時は滑らかな三角錐だった。4500年の風雨が石灰化粘土石を剥ぎ取って今の姿に変えてしまった。我々は歴史を現代の目で観るのでなく、正確に捉える力を養わなければならない。後世の勝者、権力者が、戯作家が無責任に改ざんしているのを見抜かねばならない。

二度の地球一周クルーズ 船上で過ごした103日間

体験者 榎本 恵子
聞き手 藤田 新三

地球一周では、パナマ運河とスエズ運河の航行、ピラミッド、オーロラなどを見ることが自分のテーマにしました。長い海上生活も楽しく経験できたので、コロナ禍を経て二度目は、普段日本からは行きにくい南半球を体験したいと思いました。

藤田 一度目はどのような航路でしたか。

榎本さんは、藤田氏が主催していたNHKラジオ中国語講座の復習グループ「梅花（メイフオア）」のメンバーで、当時から『Life Crossing』の読者でもあります。2019年に初めて地球一周クルーズに参加し、2025年末からは二度目となる南半球一周の旅へ。今回は、最初の北半球クルーズを中心にお話を伺いました。

藤田 地球一周クルーズに参加された動機を教えてください。

榎本 旅行が好きで、以前からヨーロッパなどへ出かけていました。クルーズは2018年の短期アジアクルーズが最初です。2019年の地

球一周では、パナマ運河とスエズ運河の航行、ピラミッド、オーロラなどを見ることが自分のテーマにしました。長い海上生活も楽しく経験できたので、コロナ禍を経て二度目は、普段日本からは行きにくい南半球を体験したいと思いました。

榎本 2019年9月1日から12月14日までの103日間です。日本を出てハワイへ行き、カリブ海を巡ってメキシコ、グアテマラを経てパナマ運河を通過しました。その後、ニューヨーク、カナダに寄港し、アイスランドへ向かう途中、海上で6回オーロラを見ることができました。ヨーロッパ各地から地中海を航行し、モナコ、イタリア、ギリシャ、エジプトを訪れ、スエズ運河を通ってアジアへ戻りました。最後はタイ、シンガポール、マレーシアに寄港して帰国しました。

藤田 船内はどのようになっていたのでしょうか。



地球一周の航路

藤田 船室や費用についても教えてください。

榎本 私は一番安価な窓付きの4人部屋で、オプションの寄港地観光を含めて約220万円でした。2年前の早期申し込みで4割引になっています。同世代の日本人女性4人で二段ベッドを使い、夜は話し合って22時半頃に消灯しました。昼間は各自自由行動なので、互いに適当に距離を置きながら過ごしました。

藤田 103日間、船上ではどのように過ごしたのでしょうか。

榎本 毎晩19時に翌日の行事を載せた「船内新聞」が配られ、それを見て参加する行事を決めます。社交ダンス、水彩画、語学、楽器練習、寄港地情報などの講座に加え、乗船客が自ら主催する「自主企画」も目白押しでした。エイサー、カラオケ、写経、手芸、絵手紙などが無料で開かれ、運動会や赤道通過祭りでは年齢に関係なく交流しました。生演奏をゆつくり聴いたり、疲れたときは部屋で昼寝をしたり、強制される

ことなく各自のペースで過ごせます。

藤田 乗船するまでは知り合いでもない方が103日間も一緒に生活するわけで、軋轢もあつたのではないですか。

榎本 なかったと言えばうそになります。私のように早起きのものは他の方に気を使いながら行動しなくてはいいないし、中には私の強い方もいましたが、そこは長い人生を歩んできた者同士、うまく乗り越えてきました。

藤田 最も印象に残ったものは何ですか。

榎本 やはり、夜空にゆめくオーロラです。防寒服を着たままベッドで眠り、船内放送で「オーロラが出た」と知らされると、部屋の皆と大急ぎでデッキへ駆けつけました。外は零下10度ほどで寒さとの戦いでしたが、忘れられない光景になりました。

藤田 ありがとうございます。次回、南半球一周の旅についてお聞きします。

人の景

連載
第30回

プリーモ・レーヴィ

今を生きることの憂鬱
〈「174517」とは何か〉

鎌倉在住 市川 隼

プリーモ・レーヴィ (Primo Levi) は1919年7月31日北イタリアのトリノに生まれ、1937年にトリノ大学理工学部に入學し、化学を専攻した化学者だった。1938年イタリアに於いて人種法が制定され、ユダヤ人が公教育から締め出され、それ以前に入學していたレーヴィは學業を続けられたが、卒論の為の実験はどの教授の実験室でも断られ、辛うじてニコロ・ダポルタ助手が手を差し伸べ、卒論は高い評価を得たが、卒論の余白には大学当局から、「ユダヤ人種」との

但し書きが付け加えられていた。卒業したもののユダヤ人を理由に職が得られず、トリノから離れたバラジェローの石綿鉱山やミラーノ (Mirano) のスイスの製薬会社で職を得たとされている。

当時のイタリアはムッソリーニの全盛時代であり、1935年には第二次エチオピア戦争ではイタリアは英仏と対立し、1937年には日独伊同盟を成立させ、ヒットラーと手を組みスペイン戦争でもフランコを支持していた。イタリアは、ファシズム支持派と反支持派の対立で政争が激し、ムッソリーニは一時退陣を余儀なくされ、ヒットラー軍のイタリア侵攻で復権を果たしたが、内乱は激しさを増していた。レーヴィはミラーノで反ファシズム運動に共鳴し、自らもパルチザンのメンバーに身を投じるようになったが、1943年12月、ファシスト軍のスパイの手引きにより一斉検挙され、レーヴィはユダヤ人故に、1944年2月アウシュビッツ強制収容所に送られ、1945年1月27日にソ連軍によって救出され、イタリアに帰還

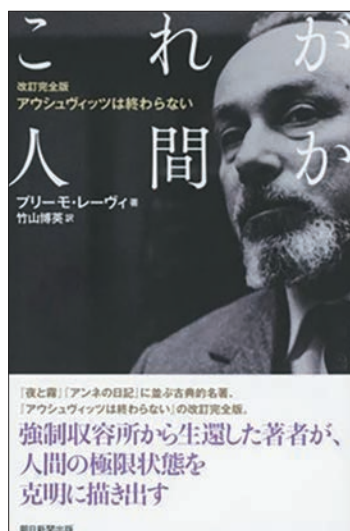
できたのが同年10月であり、アウシュビッツに送られた650人中、奇跡的にも生存し得た23人の1人だった。

レーヴィは化学者であり、作家であり、詩人でもあるが、「語られなかった出来事は、やがて起きなかったことになる」として記したアウシュビッツでの体験記『これが人間か—アウシュビッツは終わらない—』は、『夜と霧』や『アンネの日記』と共に、二度と人間が犯してはならない無残な行為を描いた記録として読者の心を得ると共に、アウシュビッツが書かれた古典作品として評価を高め、イタリアへ帰る迄の9ヵ月を綴った『休戦』は、フランススコ・ロージー監督によって1997年に『遙かなる帰郷』として映画化された。レーヴィは、『予期せぬ

時に』（詩集）、『周期律』、『今でなければ いつ』等を著し、『星形レンチ』では、イタリア文学の最高賞とされる1979年ストレーガー賞を受賞しているが、67歳だった1987年の4月11日、4階の自宅から転落して死亡した。遺書の無い謎の自殺とも伝えられている。

1944年10月に、「私たちは全力を尽くして冬が来ないように戦った。(中略)だが、みなむだに終わった。昨日の夕方、太陽は(中略)、呼び戻せない程弱々しく姿を消し、今日はもう冬になっていった^{*1}」と、アウシュビッツに囚われたユダヤの人々の遺る瀬無い気持ちを描いている。

レーヴィはアウシュビッツを告発しただけでなく、パルチザンの戦いの中で、仲間を裏切り、仲間から死に追いや



プリーモ・レーヴィ著書
(朝日新聞出版)

れる男の人間が遭遇する不条理も、苦し気に見詰め、そして描いた。イタリアで

は、反戦を求める反乱が生じ、国民同士の間に軋轢が生じたが、レーヴィもその軋轢から逃れる事が出来なかったが、自伝とされる周期律の『金』の編で、当時の出来事を回顧し、詩『墓碑銘』では以下の様に詠っている。

「丘を過ぎゆくもの、大勢の中の1人よ、(中略)通り行く人よ、あなたにも 別の人もおれは求めはしない、許しも、祈りも涙も、特別な思いでも。だが一つだけ求めたい。このおれの平安が続く事を(中略)今では石となっているこの骨を、また新たな苦痛で目覚めさせないことを^{*2}」

(*1・2竹山博英訳)

第二次世界大戦から80年以上も経ちながら、相変わらず軍事力が幅を利かし、人間の顔が見えない幽霊のような国家主義が浮雲のように漂っている現代だが、レーヴィの墓碑に記されているアウシュビッツの「囚人」番号だった「174517」の数字を、どのように受け止め理解するかは、今を生きる人々に突き付けられている重い課題に違いない。

今から約300年前、越後国頸城郡（現在の新潟県上越市周辺）で、農民たちが質流れになった土地を取り戻そうとして起こした、大規模な農民の活動があった。世にいう頸城騒動だ。支配者に対する反抗を一揆、村内での対立を騒動と研究者青木虹二氏は区別している。農民たちが質地を回復して欲しいと訴えた活動なので一揆ではなく騒動と呼ばれる。

2026年3月11日朝、夢の中に「くびき」の者が訪ねてきた。イチベエと名乗っていた。7年前にも一度訪ねてきた。「くびき」という聞き慣れない名前を今も覚えていた。資料から1725年3月11日、矢代川今泉河原の刑場で処刑されたリーダーと判った。その日は301年前の同じ日にあたる。話を聴きながら不思議な気持ちとともに、聞き逃せない切実さを感じた。

その時に聴いた話が気になり、三月後の6月14日、上越妙高駅近くの小さな地藏堂と処刑場跡とされる矢代川瀬渡橋近くの河原を訪ねた。残念ながら当時を偲ぶ跡はなかつ

頸城騒動(くびきそうどう)のリーダー市兵衛の話



※頸城騒動の舞台・菅原神社のスケッチ

た。少し離れた大和七ヶ所橋付近を歩くと「むしろ旗がある」という心に響く声を聴いた。掘る道具を持たなかったので再度来ると伝えた。その後13km先の、当時2000人の農民が決起して集まったとされる菅原神社を訪ねた。

辺りは妙高の山々に囲まれ、のどかな田園風景が広がるばかりで、当時の面影を辿るのは難しかった。7月5日朝、また夢のなか市兵衛が訪ねてきた。三度目だ。以下彼から聞きとった話の記録だ。ご紹介する。

吉岡村の市兵衛が語った話

そこに私たちがいた事の証

明をしたかった。このままでは私たちはどこにもいないことになるからだ。誰が私たちのことを覚えていてのか。騒ぎを起こして、磔や晒し首になった者たちを。俺たちは本当にそれだけなのか。ただ殺されるために生まれてきたのか。いや違う。俺たちは生きていた。働きたいと言った。借金は働いて返すから、土地を戻して欲しいと頼んだ。俺たちの土地だ。

誰もその土地を耕していなかった。誰も俺たちほど真剣に働いていなかった。俺たちは朝から晩まで働いた。誰よりもよく働いた。なぜって家族がいたからだ。病気の婢もいたし子供達もいた。他に何もなかった。仲間はいた。皆この土地にいた者たちだ。借りている費用は膨らんだ。働いて返すしか方法はなかった。誰も諦めていなかった。耕して米を売らせ借金を返す。それ以外に途はなかった。

誰も生きるのに諦めてはいなかった。いいか。俺たちは世の中を変えようとか、地主から、ものを奪うとか考えていなかった。お天道様のもとで働こうと考えていたんだ。

生きているのは誰も同じと考えた。地主も役人も人間、俺たちも人間、ただ役割が違う、それくらい俺たちも知っていた。

だから殺されるとは思っていなかった。120日も牢屋に入れられても、裁きの結果は放免されると信じていた。そんなひどい事を役人はしないと考えていた。磔だ、晒し首だというのはおかしいと思っただけだ。だからお前のところにはわざわざ伝えに行つた。301年経っていると聞いて驚いた。何年経っているのかなんてこちらにいると分からない。誰も何年経つたなんて教えてくれないからだ。

お前さんがくびきに来て俺たちのいた場所に手を合わせてくれたのはとても嬉しかった。驚かせてはいけないうと思っただけだ。俺たちが長く閉じ込められていた、その場所に来た時、思わず「そこだ、そこだ」と言いたくなった。それでも抑えて「むしろ旗がその辺にある」とだけ伝えた。怖がるといけないと考えたからだ。

だがお前さんは菅原神社に

行って俺たちのことを考えてくれた。俺たちが縛られ引き立てられて歩いた道を辿り、俺たちが生きていたのを想像してくれた。俺たちが生きていたと初めて伝わった気がした。お前さんが俺たちのことを思ってくれたのが分かった。その瞬間仲間と共に安心したんだ。

なぜって、俺たちはそこにいて仲間とともに騒動を起こして、その結果亡き者にされた。亡き者って分かるか。そこに居ないことになるんだ。俺たちの生きた跡は家も畑も子供たちも、みな、どこに行つたか分からない。すべて何も無くなったんだ。

誰に何を言つたらいいんだ。こちらに来てフワフワして、俺は誰なんだってずっと迷っていた。俺は働いた。土地を耕した。家を持った。婢もいた。子供もいた。近所に友人もいた。だが皆どこかに行ってしまった。そして、ずっとどうしてよいか分からず迷っている。悲しくてつらくてたまらなかった。

おまけに裁きに あつた3月11日に俺たちのことを想ってくれる者は日の本にいなかった。

頸城騒動は、江戸時代中期、現在の新潟県上越地方で起きた大規模な農民騒動である。借金の担保として失った田畑を取り戻そうとする農民が、幕府の流地禁止令を土地返還の命令と受け止め、地主の田畑を耕すなどの実力行使に出た。騒動は約150か村に広がり、幕府は周辺諸藩に鎮圧を命じた。指導者には磔や獄門などの厳しい処罰が下され、土地集中と農村内の貧富の差を示す事件となった。

た。だからお前のところに行った。俺たちは生きていて土地を大事にした。必死に働いた。土地を借りていた。貸してもらって作物を作って家族を養った。殺されるために働いたわけじゃないって伝えたかった。俺たちは生きていたと伝えたかった。

301年前のその日に殺された。だが悪いことをしたとは思っていない。だから皆に言ってくれ。俺たちはお前たちの先祖にあたる。お前たちは俺たちの300年先を生きている。精一杯働いてくれ。そして、おかしいことはおかしいと言ってくれ。家族のために働いていた者が突然捕まって殺されるような世の中にしないでくれ。

俺たちは誇りを持って生きていた。だが、その地で果てた。そのような者たちがいたことを覚えておいてくれ。話を聴いてくれてありがとう。聴いてくれた人たちに感謝する。どこかでまた会ったらよろしくと挨拶させてくれ。俺はまたこうやって話し続けるかもしれないから。ではまたどこかで会おう。(完)

ライフクロッシング 特選エッセイ

熱中症騒ぎ

前島 咲子

先週の日曜日、朝起きてベランダに出たら、涼しい風が吹いていた。気温も28程度。部屋中の窓やガラス戸、ドアを開けて、風を通した。

朝食を済ませ、たまっていた洗濯物を洗濯機に放り込み、ベランダいっぱい干した。ついでに、ベランダの整理をして、生ごみをゴミ置き場にもっていったり、胡蝶蘭に水をやったりした。その後、簡単な昼食を済ませ、新聞を広げて読み始め、記事の切り抜きなどをしていった。いつもの日曜日が過ぎていた。

多分、午後2時過ぎだったと思う。いきなり目の前が暗くなり、意識が遠のいていく。何が起ったのかわからず、スマホを探り、長女に電話。だが繋がらない。

急遽119番に電話し、もつれる言葉で救急車を呼んだ。救急の時に持ち出すものは、いつも用意している。そのバッグと共に救急車に運び

込まれ、大病院の救急部に辿り着いた。

心電図や血液検査などいろいろ検査を受けたが、特に問題はなかった。点滴を受けたおかげか、夕方になって症状は落ち着き、タクシーで帰宅。



何が起ったのか。主治医と連絡が取れたのが木曜日。結局、熱中症だったと分かった。彼は「のどが渇いてなくても、毎日最低1.5リットルの水を、少しずつ飲むように。さらには就寝前には、コップ一杯の水を飲むように」と厳命した。

熱中症は他人ごとだと思っていたが、私ごとになった。



編集余話

本誌81号と82号のスイス人住職に続いて今号には若い宗教者に信仰(韓国生まれで母親が韓国のクリスチャン)について語っていただきました。その彼女の信仰告白を九州のクリスト者に読んでもらいました。以下が同じ信仰を持つ方からの感想です。

そうだ、その通りだと思って読ませていただきました。この方のお書きになった境地は私の境地でもあります。70

をいくつも越して、戦争こそ体験していませんが、多くの辛い体験の中で信仰が支えてあったことは確かです。そのことをストレートに表現されていますので、馴れない方もいらつしやるかとは思いました。タウン誌にかかれるのは珍しいかなとは思いますが、キリスト者のつぶやきとしては至極ナイーブな表現をされていると思います。

普通こうした信仰を胸に抱きつつ他の表現で同じ内容を展開される、小説とかエッセーでなさる方は多いし、ま

たそれで奥行きもあるかなとは思いますが、この方はその意味ではシンプルですね。私には書きませんが公にしたことはまだありません。

韓国の方は信仰心の厚い方が多く、このように率直に表現される強さがあります。これは日本との違いです。宗教に対する理解の表面的になり勝ちな日本では理解されにくいかもしれませんが、学べるべきものがあるかと思っております。深い信仰の持ち主だと感銘深く読みました。

編集後記

今回も秀作が集まりました。私的には丸山さんの「頸城騒動(くびきそうどう)」および簗下さんの「遠き想いのベルリン」が印象に残ります。編集している間も、歴史に引き込まれるような錯覚に陥りました。大手文芸誌に載っていてもおかしくない作品だと思います。数千部発行の同人誌とはいえ、これらの作品を世に送りだせたことは編集者冥利に尽きます。

今こそ、地域から政治の流れを変えよう

高市政権の暴走を止め、

市民とともにつくる政治へ



立憲民主党東京都連代表 川名 ゆうじ

このたび、立憲民主党東京都連の代表という重責を担うことになりました川名ゆうじです。

私はこれまで武蔵野市議会議員として6期、地域の現場で市民の皆さんの声を聞き、政治の場に届け、解決していく活動を続けてきました。そんな私が東京都連代表選挙に立候補した背景には、今の日本政治に対する強い危機感と同時に、「立憲民主党自身も変わらなければならない」という強い思いがありました。

■大きな岐路にたつ政治

今、高市政権のもとで、日本の政治は大きな岐路に立たされています。

防衛費の増大と軍事力の強化が優先され、国家を前面に押し出す政治が進む一方で、物価高に苦しむ人々の暮らし、子育てや教育、医療、介護、社会保障など、日々の生

活を支える政策が十分に優先されていないと思えません。

もちろん、日本の安全を守ることは政治の重要な責任です。しかし、安全保障を理由に軍事力の強化ばかりが突出し、平和をつくる外交努力や国際協調が軽視され、さらに国家主義的、復古主義的な価値観が強まることで、戦後日本が積み重ねてきた平和主義、基本的人権、民主主義、多様な生き方が揺らぐのではない

か。私は、今の政治の方向性に強い危機感を持っています。「今の政治はどこへ向かっているのか」「このままで本当に大丈夫なのか」。

そうした不安を感じている方は、立憲民主党の支持者だけではないはずです。他の野党を支持している皆さん、特定の支持政党を持たない皆さんとも、この危機感を共有し、政治の流れを変える力をつく

っていききたいと思っています。だからこそ今、野党が果た

すべき役割は極めて大きいと考えています。

ただ政権を批判し、「反対」と声を上げるだけでは、政治の流れを変えることはできません。「私たちなら、こういう社会をつくる」という具体的な選択肢を示し、それを実現できる政治の力をつくらなければなりません。

そのためには、立憲民主党自身も変わる必要があります。これが、私が東京都連代表選挙に立候補した大きな理由です。



■ボトムアップの政治

これまでのように国会議員を中心に上から方針を決めるのではなく、市民に最も近い基礎自治体議員、都道府県議会議員、そして国会議員が対

等に連携する。そして、その中心には常に市民の皆さんがいる。私は、そんな「ボトムアップの政治」を立憲民主党の姿として実現したいと考えています。

■政治が議員だけのものではない

そして、立憲民主党東京都連も議員だけの組織であってはいけません。

党員、協力党員、パートナーズはもちろん、他の野党を支持する方、支持政党はないけれど今の政治に危機感を持つ方々ともつながり、対話し、ともに政策を考え、行動できる組織へと変えていきたいと思っています。

民主主義を守る。基本的人権を守る。平和を守る。そして、国家のために国民がいるのではなく、一人ひとりの暮らしと尊厳を守るために政治がある。この大きな方向性を共有できる人たちが、立場や党派の違いを超えて力を合わせることで、今こそ必要です。そして、次の国政選挙では、私たちが目指す社会の姿を明確な選択肢として示さな

ければなりません。

軍事力の強化だけに頼らない平和と安全保障。誰もが自分らしく生きられる社会。物価高の中でも安心して暮らせる経済。子どもたちが生まれ育つ環境にかかわらず未来を選べる教育。老後や介護への不安を減らす社会保障。そして、権力の暴走を許さない民主主義。

こうした社会の姿を市民の皆さんと一緒に作り上げ、「もう一つの政治の選択肢」として示していく。それが、立憲民主党と野党に求められている役割だと考えています。立憲民主党東京都連も変わります。

今の政治に危機感を持つ多くの皆さんと力を合わせ、政治の流れを変える大きな力をつくっていききたいと思います。

議員任せではなく、多くの国民、市民の皆さんとともに。今の政治に不安を感じている皆さん。その思いを、あきらめに変えないでください。一人ひとりの暮らしと尊厳、平和と民主主義を守る政治を取り戻すために、地域から、国政を一緒に変えていきましょう。

川名ゆうじプロフィール：立憲民主党東京都連会長。立憲民主党自治体議員ネットワーク(全国自治体議員団)幹事長、立憲民主党つながる本部副本部長。武蔵野市議会議員、議会運営委員長、建設委員会に所属。長良川河口堰反対運動から政治のおかしさに気づき、子どもの保育園、学童保育の父母会活動から市政を変えようとフリーライターから市議会議員になり現在6期